

【報告書】
外貨獲得型製造業
「五島うどん製麺」
の需要動向調査

経営発達支援計画

5-2.重点業種についての需要動向調査

「外貨獲得型製造業」編

平成 30 年 12 月 13 日

新上五島町商工会

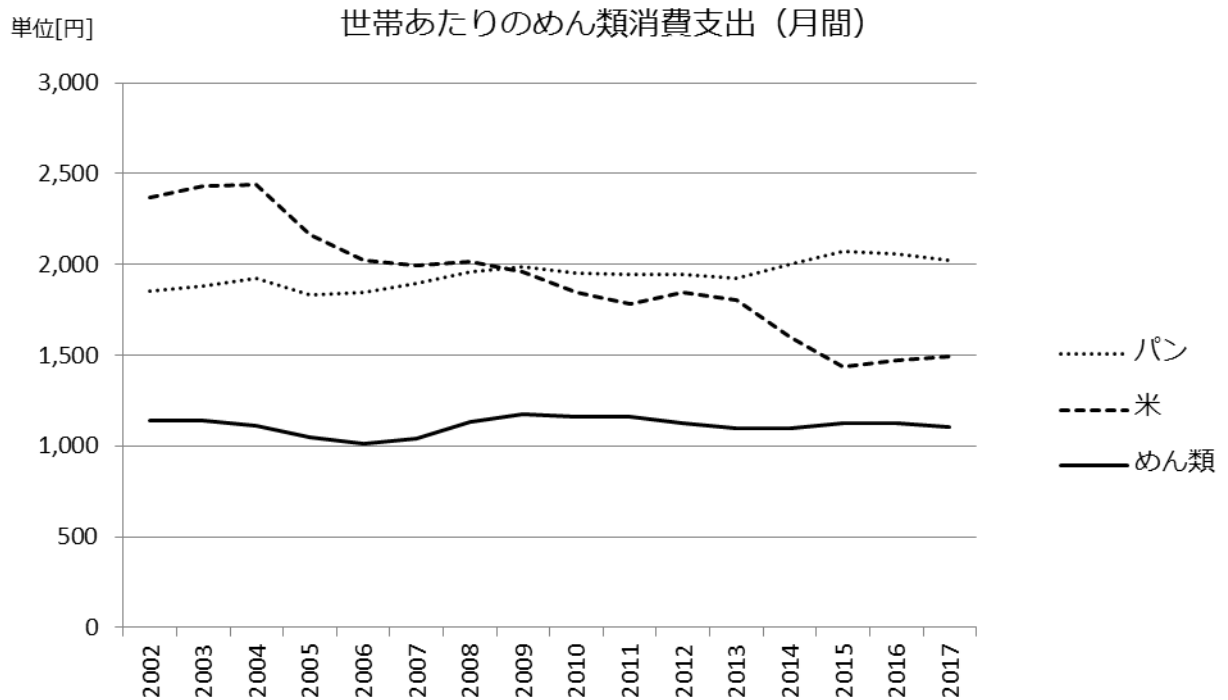
【目次】

1. めん類全体の消費動向	P. 1
2. めん類のカテゴリ毎の生産量	P. 3
3. 五島うどんの状況	P. 5
(1) 統計指標による動向	P. 5
(2) 五島うどんの認知度と価格帯	P. 6
4. 製麺業者の設備投資動向	P. 8
5. 製麺業者の決算動向	P. 9

1. めん類全体の消費動向

総務省「家計調査」により、需要側からめん類全体の消費動向を探る。

下のグラフに示すとおり、めん類の世帯あたり月間消費支出額は2006年に底を打ち、3年後の2009年にピークを迎え、そこから横ばいの傾向が続いている。消費支出の総額に占める割合においても同様であり、家庭におけるめん類の需要は停滞していると言える。

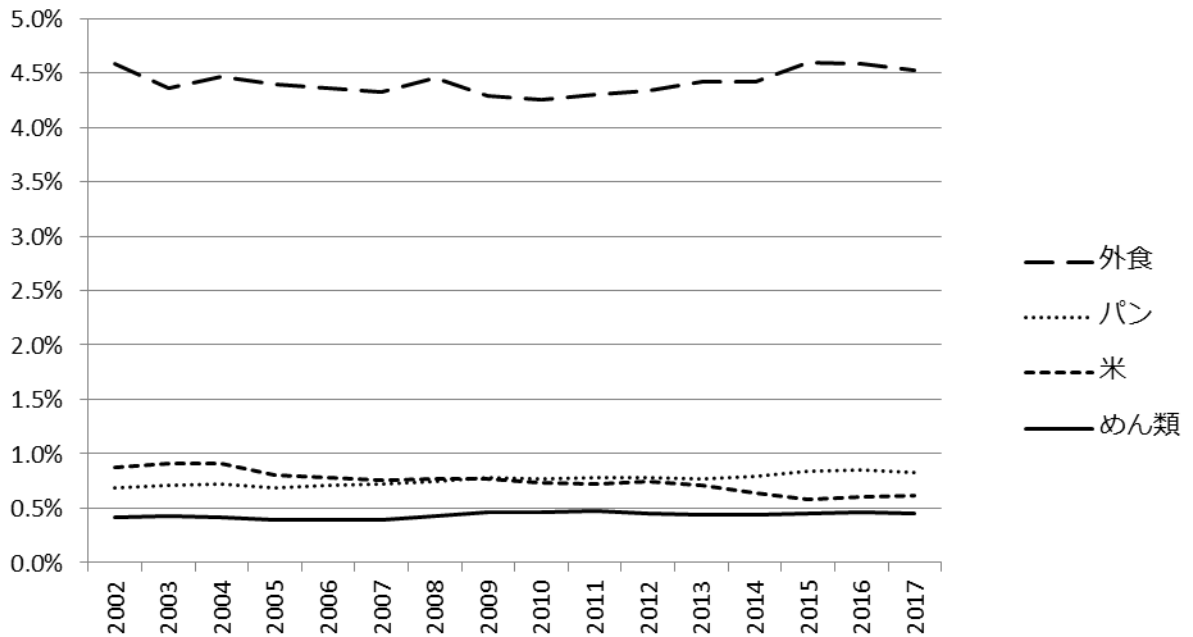


パン、米、めん類の主食群を合計した消費支出は2010年以降に一貫して減少しているが、この原因として考えられるのが外食である。

次に示すグラフは、世帯あたりの消費支出に占める割合で、前出の主食群に外食の消費支出を加えたものだが、外食は2010年に底を打ってからは上昇傾向にある。

生活スタイルの変化や景況感などによって外食産業が市場を広げた反面、米とめん類といった食材の世帯消費支出が圧縮されているとも考えられる。

世帯あたり消費支出に占める割合



ここまでの分析においては「世帯あたり」を基準にしてきたが、国内の総世帯数は核家族化と晩婚化を背景として一貫して増加している。

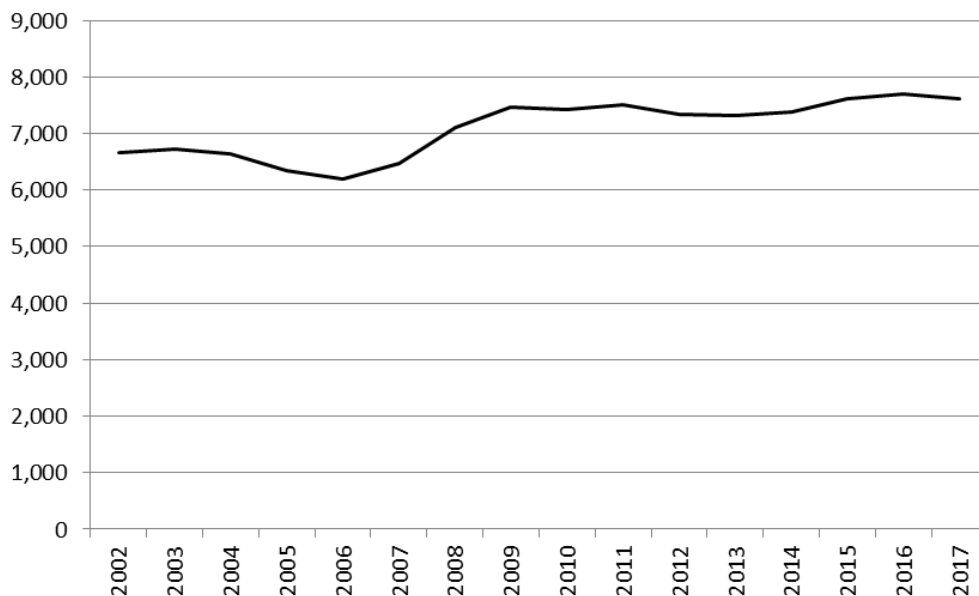
つまり、世帯あたりの消費支出が低下していても、世帯数が増加していれば、消費額全体の増減は分からない。この観点から、「国内世帯数」と「世帯数あたり消費支出」の積から、国内市場規模の推移を示したのが次のグラフである。

(*厚生労働省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」住民基本台帳による)

傾向としては上記で述べてきたことと変わらないものの、めん類市場全体は過去 10 年間ににおいては横ばい若しくは微増と言える。

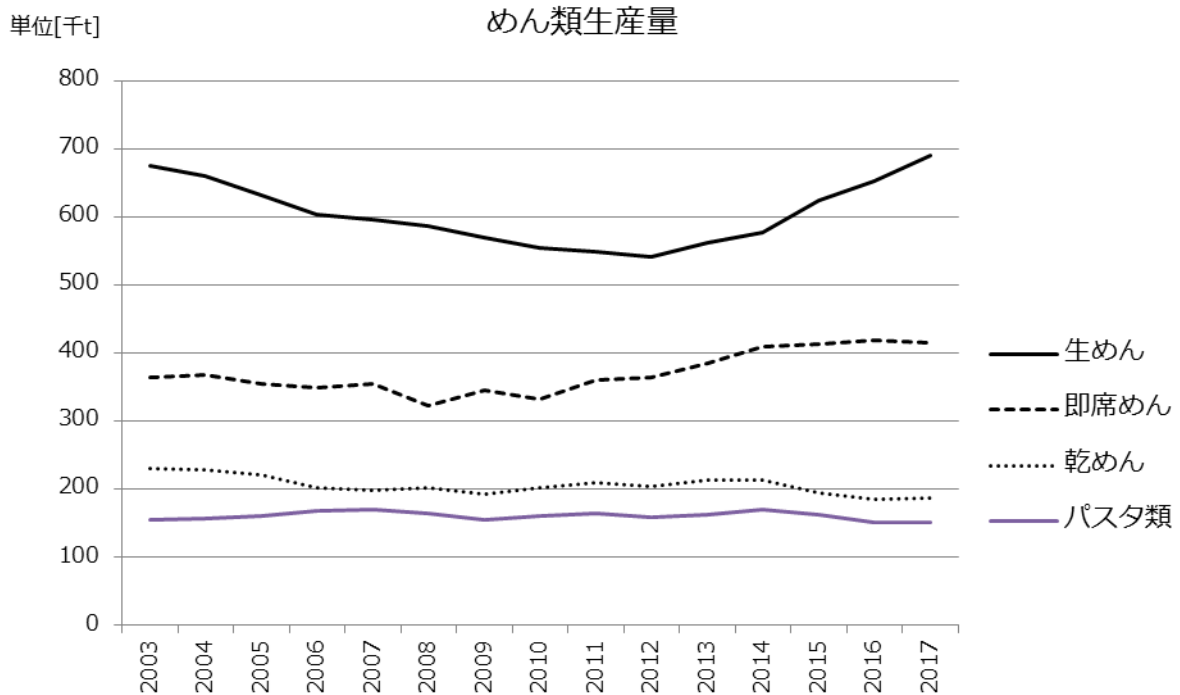
国内消費支出でのめん類市場規模

単位[億円]

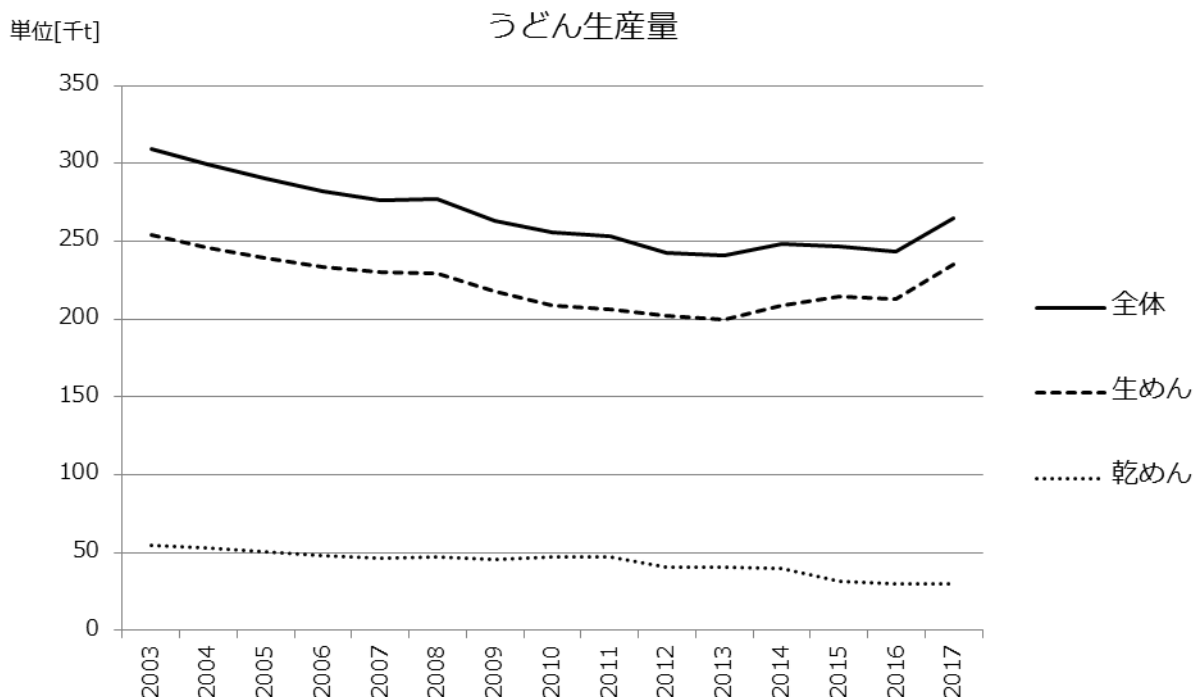


2. めん類のカテゴリ毎の生産量

農林水産省「食品産業動態調査」により、供給側からめん類のカテゴリ毎の動向を分析する。形態毎に「生めん」「即席めん」「乾めん」「パスタ類」に分類すると、次のグラフに示すとおり、生めんはV字回復を果たしている一方、即席めんは微増、乾めんとパスタ類は減少傾向である。

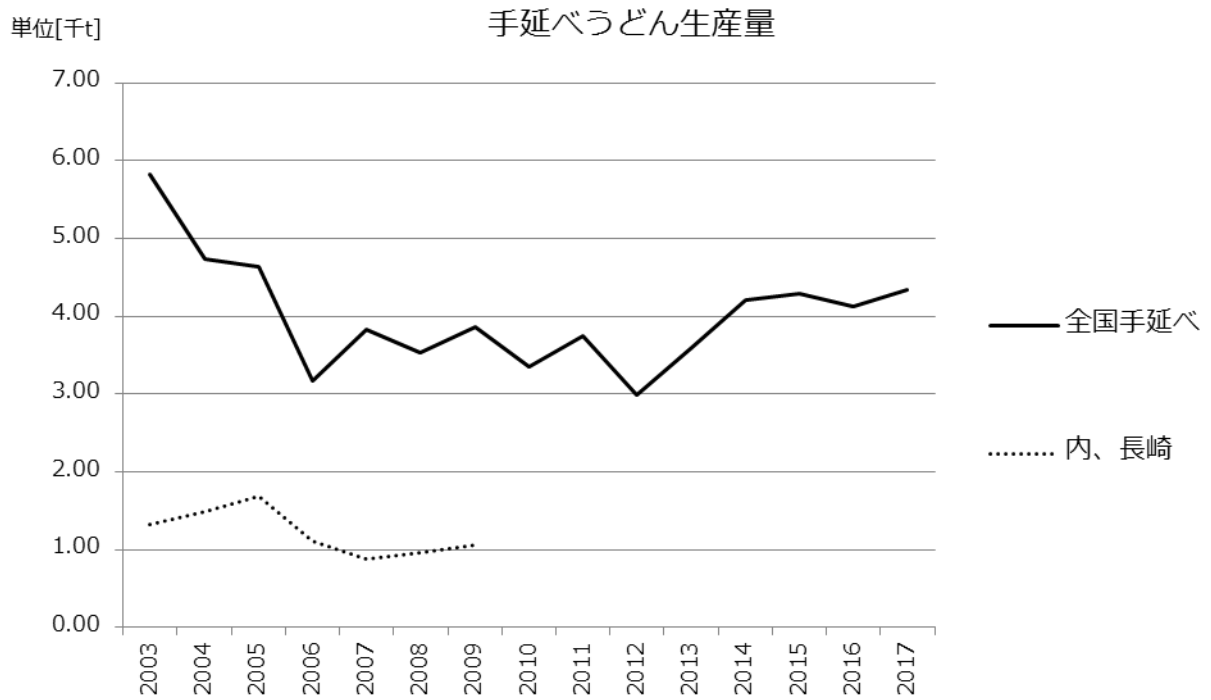


また、うどんに着目すると、下のグラフにおいてうどん全体では復調傾向にあるものの、その要因として生めんの伸展が大きく、うどん乾めんの生産量減少は顕著となっている。



他方、乾めんの中のカテゴリの一つである「手延べうどん」の生産量に着目したものが次のグラフ。2012年を底に回復傾向が続いている。

2009年までは都道府県毎の生産量データがあり、長崎県の手延べうどん（ほぼ全量が五島うどんと考えられる）の推移を把握できたが、農林水産省に確認したところ2010年以降はデータなし。長崎県以外の手延べうどんとしては、岡山県の備中手延麺（うどん・そうめん・ひやむぎ）や、讃岐の手延べうどん、東海地区を中心に展開する手延べうどんチェーン店の「水山」が有力。



3. 五島うどんの状況

五島うどんの現況はおおむね好調であるものの、メディア効果を維持し続けていけるのかを注視していく必要がある。また、従業員の雇用については補助施策が行われた効果もあってか、直近年で大きな伸びが見られる。その一方で、生産性の指標となる従業者数あたりの生産・出荷額の向上が、全体の生産・出荷額の伸展とともに今後の課題となる。

(1) 統計指標による動向

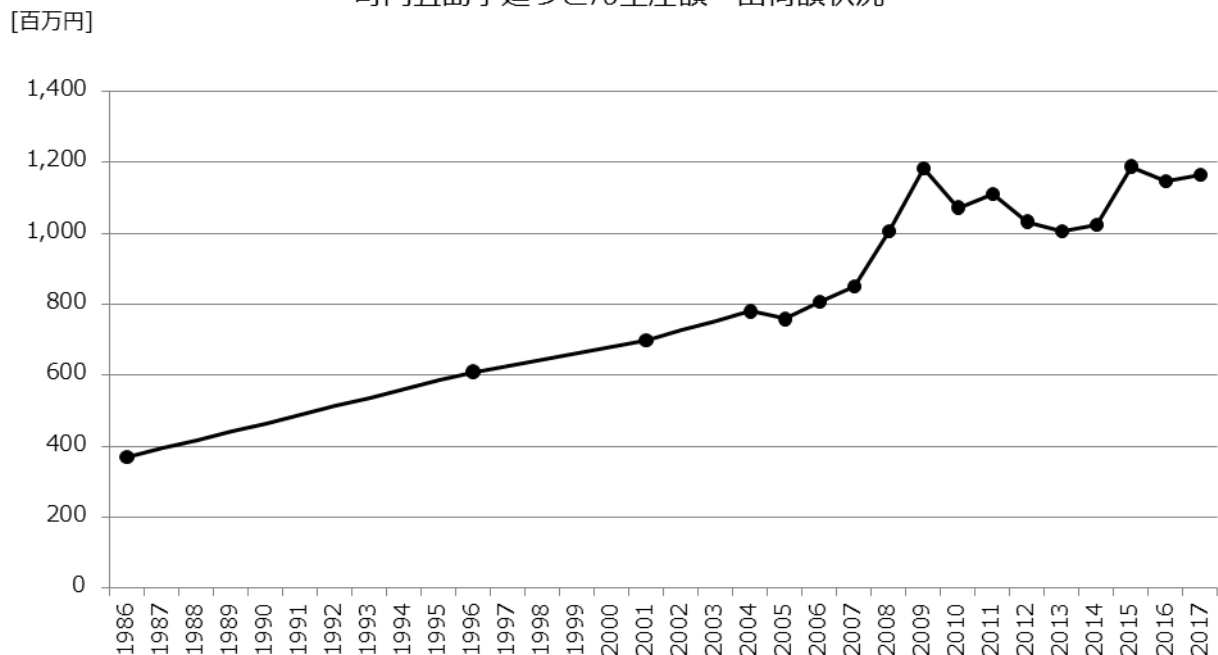
新上五島町役場観光商工課が年次で収集している、町内五島うどんの生産出荷額の状況を次のグラフに示す。

2007年まで穏やかながら順調に出荷額を伸ばした後、2008年の飛躍を経て2009年にピークを迎えた。その後は下落傾向が続いたが、3年前の2015年には再び過去最高を記録している。

2008年から2009年にかけての飛躍は、県庁の支援で大規模キャンペーンを行ったためであり、またこの時に販売会社として「株式会社長崎五島うどん」が設立された。

2015年のピークは、同年4月に放送された「秘密のケンミンSHOW」で大きく取り上げられたことで、他メディアをも巻き込み露出機会が激増したことが原因。その後も2018年の世界遺産登録に関するメディア露出機会の影響もあってか、この水準を維持していると言える。

町内五島手延うどん生産額・出荷額状況



一方で、次の表に示すとおり、五島うどんの製麺所の業者数は一進一退の状況ある。更に町内従業員数を見ると、2017年に雇用機会拡充事業による町の補助施策が行われた影響か、直近年では過去最高となっているものの、ここ数年間では増減が激しく安定していない。

また、1事業所あたり従業員数を見ると昨年は過去最高の値となっており、非常に徐々にではあるものの事業所の大型化が進んでいると言える。

表. 五島うどん戦略データ集より (町役場観光商工課)

	年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
業者数	手づくり				11	11	10	11	11	8	8	5	5	5	5
	手延べ式				25	24	24	24	24	24	24	24	25	24	26
	計				36	35	34	35	35	32	32	29	30	29	31
	販売会社 (町内)				2	2	2	2	2	3	3	3	2	2	2
	五島市				2	2	2	2	2	1	1	1	1	0	0

※手づくり 昔ながらの伝統的行程(かけば機を使わない)

手延べ式 手延べの行程で、一部機械を導入している

	年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
町内従業員数 [人]				168	181	179	186	185	187	191	184	180	212	178	227
従業員規模別 事業所数	1~2人	13	13	13	16	12	14	16	17	14	11	11	12	12	14
	3~5人	11	10	11	9	12	6	8	8	6	7	9	4	5	3
	6~9人	6	10	9	8	10	10	9	7	9	7	7	8	9	9
	10人以上	2	2	3	5	3	6	4	5	6	6	5	8	5	7
	計	32	35	36	38	37	36	37	37	37	35	31	32	32	31
1事業所あたり従業員数 [人/事業所]				4.7	4.8	4.8	5.2	5.0	5.1	5.5	5.9	5.6	6.6	5.7	6.9
生産額・出荷額 [百万円]		781	759	807	851	1,007	1,183	1,073	1,111	1,033	1,007	1,024	1,189	1,148	1,166
販売地域 シェア	町内								21.0%	24.0%	21.2%	21.8%	22.0%	21.0%	20.0%
	長崎県 (町内除く)								38.3%	33.0%	32.7%	34.2%	35.0%	35.0%	35.0%
	九州 (長崎県除く)								21.0%	26.0%	27.2%	26.0%	23.0%	24.0%	25.0%
	関西								5.9%	5.0%	5.6%	5.0%	6.0%	6.0%	5.0%
	関東								13.0%	9.0%	9.6%	10.0%	9.0%	10.0%	11.0%
	その他								0.8%	3.0%	3.7%	3.0%	5.0%	4.0%	4.0%
販売方法 比率	直接販売								38%	38%	37%	38%	34%	35%	30%
	間接販売								62%	62%	63%	62%	66%	65%	70%

※直接販売 通販など直接お客様から注文が入り、販売する方法。(物産展等催事を含む)

間接販売 小売店に、直接または問屋等を通して納品する方法。

(2) 五島うどんの認知度と価格帯

五島うどんの認知度を調べるため、検索サイト (Google) で有力と思われるうどんのブランド名を検索し、その検索数を比較した。

その結果、生産規模に対してはかなり多いと思われる数のサイトがヒットするという良い結果が得られ、2015年4月以降のメディア露出の影響と思われる。

また、五島うどんの価格帯は他のうどんブランドと比較してどのような位置にあるのかを調べるため、Amazon内で各ブランド名を検索し、検索ランキング上位10商品(つゆ付き除く)の単価を調べたところ、6ブランド中3番目に高いという結果が得られた。次表に数値を示す。

ブランド名	讃岐うどん	きしめん	稲庭うどん	五島うどん	氷見うどん	水沢うどん
発祥	香川	名古屋	秋田	新上五島	富山	群馬
検索結果 [千件]	10,500	4,750	1,780	1,050	473	439
価格 [円/100g]	99	69	293	173	242	150

2018年11月25日検索結果（※水沢うどんのみ価格サンプル数6）

4. 製麺業者の設備投資動向

中小企業がどのような設備投資を行っているのかを知るため、H29 補正「ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金」の採択結果から、「うどん」若しくは「麺」という単語が含まれる案件を調べた。結果の概要は以下の2点。

- ・コスト削減、所要時間の削減、品質向上など、生産ライン改善による生産性向上のための設備導入。
- ・新商品製造のための設備導入。

個社において設備投資を検討する場合には、上記の採択結果（事業計画名あり）を参考にできる。
（別途集計資料あり）

5. 製麺業者の決算動向

TKC 経営指標（要約版）における、めん類製造業者の黒字企業（112 社平均）の損益計算書の主要指標は下表のとおりとなっている。

業種コード		0992	
業種名		めん類製造業	
従業員数		[人]	38.4
売上高	売上高	[千円]	707,996
	前年比	[%]	97.6
成果分配	限界利益率	[%]	45.7
	労働分配率	[%]	39.8
	1人当たり人件費	[千円]	3,352
収益性	経常利益	[千円]	35,278
	売上高経常利益率	[%]	5.0
	総資本経常利益率	[%]	5.1
債務償還能力	自己資本比率	[%]	54.9
	ギアリング比率	[%]	47.8
	自己資本額	[千円]	381,249
	ICR	[倍]	16.7
	償却前営業利益	[千円]	61,275

出典：TKC 経営指標（要約版）・平成 30 年指標版